

社会連携教育の 教育コーディネート

—CBL科目運営からの考察—

2018年7月7日

岡山大学 地域総合研究センター
実践型教育プランナー
吉川 幸
myoshikawa@okayama-u.ac.jp

- 岡山大学の「実践型社会連携教育」
 - ねらい
 - 実施状況
- 教育コーディネートの機能
 - 何をするのか
 - 誰がするのか
 - 先行事例からの学び

(c)Miyuki Yoshikawa 2018

2

国立大学法人 岡山大学

11学部、8研究科を擁する総合大学
前身は岡山藩医学館、第六高等学校、岡山医科大学等



学生数 13,136人
 学部 10,167人
 大学院 2,969人
 留学生数 685人
 学部 199人
 大学院 486人
 専任教職員数 2,671人
 教員 1,382人
 職員 1,289人

(c)Miyuki Yoshikawa 2018

3

国立大学法人 岡山大学

- 研究大学強化促進事業選定機関
- 研究・教育・臨床の拠点事業を有する9大学の1つ
- 岡山大学病院：革新的医療技術創出拠点
- スーパーグローバル大学創成支援事業 タイプB **SGU**
- 第1回「ジャパンSDGsアワード」SDGsパートナー賞受賞



(c)Miyuki Yoshikawa 2018

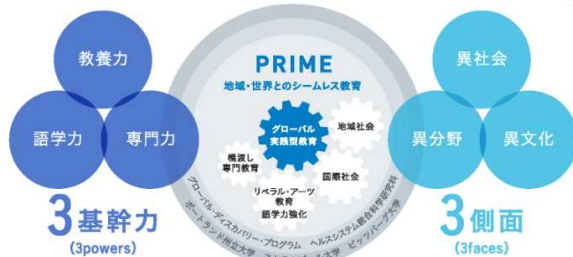
4

PRIMEプログラム

(PRactical Interactive Mode for Education)

世界で活躍できる「実践人」を育成する!

3×3 教育 (3基幹力の修得と 3側面の経験)



(c)Miyuki Yoshikawa 2018



9

「世界で活躍」も、原体験となるのは地域での学び

地域での経験
 地域でのトライ&エラー
 地域でのふれあい
 地域での振り返り

**地域での
 経験学習サイクルを
 回す試み**

↓
**岡山大学の
 実践型社会連携教育**

地域発のグローバル大学

(c)Miyuki Yoshikawa 2018

6

岡山大学の「実践型社会連携教育」

- 地域社会の様々な主体が直面する課題を取り上げ、その解決のために必要な実践知（判断力、リーダーシップ、チーム力、責任・気概）を備えた実践人を育成
- 問題発見や解決策を考えるための技能や態度、素養を培う

(c)Miyuki Yoshikawa 2018

7

岡山大学の「実践型社会連携教育」

[科目要件]

- ① 課題解決・課題発見を組み込む
- ② 社会の現場に出向く
- ③ 社会と大学（学生）の互惠性
- ④ 学習成果への外部評価

開講実績	2016実績	計	教養教育	専門教育
	科目数	123	61	62
受講者数	1,912	1,286	626	

2,400=岡山大学のほぼ入学定員

目標	年度	2016	2017	2018	2019	2020	2021
	目標割合	45%	55%	70%	85%	90%	100%
	受講者数	1,080	1,320	1,680	2,040	2,160	2,400

[科目分類]

分類	記号	解説
基本タイプ Community	A Advanced	①地域や企業等の現場に出向き、かつ②その時間数が全授業コマ数の3分の1以上、かつ③公開型授業発表会を行う、の3条件を満たす。(例：PBL、CBL、インターンシップ)
	B Basic	地域や企業等の現場に出向く、または現場の課題を抱える当事者とのディスカッション等の学修活動が1コマ以上ある。ただし、単に外部講師が講義するだけの座学は対象としない。(例：地域調査、企業視察)
グローバル要素の付加 Global 基本タイプにG及びG+を冠する	G+	地域連携して学修する現場が、外国または国内の外国人コミュニティである。(例：国際インターンシップ)
	G	留学生と日本人学生が協同することにより異文化理解を進めつつ学ぶ授業、海外とのテレビ会議など他言語で討論が行われる授業など。(例：海外協定校とのテレビ会議による授業)

- 事前学習 35時間
- 事後学習 6時間
- 就業実習 2~4週間、社員に準じて働く
- 実習期間中は留学生と同宿し共同生活。
- “将来社会に出るために、自分は大学でなにを学ぶのか”-留学生もディスカッションパートナーに。



実践型教育/学習概論2	
分野	教養 (実践知)
学期	2学期 (6-7月)
単位数	1 (60分×2×8週間)
人数	12名
学習目標	学生として守られた状態ながら社会や勤務の現場を垣間見て、社会に出る前段階の大学生としての学びと、自身の学修目標について明確に語れるようになる
構成要素	<ul style="list-style-type: none"> 履修動機の言語化 思考ツール習得 地域協力者との複数回の接触機会 社会活動や就業の現場を観察する視点

図1 1週目のワーク：「働く」から連想する語



- 社会、地域、自分の関わりを考える
- 社会人の講話（数年後の自分を投影）とジョブシャドウイング
- “将来社会に出るために、自分は大学で今なにを学ぶのか”を問う



(C)Miyuki Yoshikawa 2018 図2 8週目のワーク（付箋）と振り返り（直書き）

地域と教育機関との協働／ヒントは米国ポートランドに

What is Community-based Learning?
Community-based Learning (CBL) involves **educating students in an academic discipline** while also **preparing them to be contributing citizens**. By becoming involved in community activities, students benefit others while benefiting themselves, learning about teamwork, civic...

学問領域で教育する

貢献する市民に育てる

頭

心

手

What is Community-based Learning?
Community-based Learning (CBL) involves educating students in an academic discipline and the classroom and the community, preparing them to be contributing citizens, and providing internship placements, and should complement coursework and theoretical concepts, allowing you to apply your learning in a work setting. CBL is a **venue for engaging your head, heart, and hands** by developing relationships and networks in the community and working in the field of sustainability education. You can use your CBL requirement as an opportunity to build relationships with various organizations, to try something new, or to engage in a long term project with one group or organization.

上段： PSU » OAI » Community-based Learning Toolkit <https://www.pdx.edu/oai/community-based-learning-toolkit>
下段： PSU » Graduate School of Education » ELP » Programs » Leadership for Sustainability Education (LSE) / LECL » Community Based Learning <https://www.pdx.edu/elp/community-based-learning>
(C)Miyuki Yoshikawa 2018

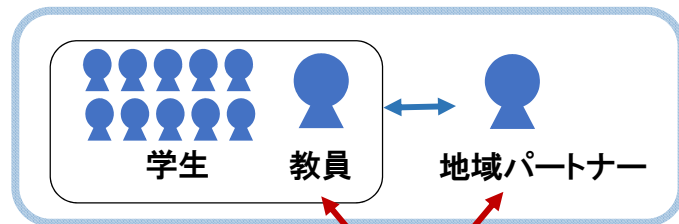


なぜポートランドか

- かつては環境汚染問題が存在したが、まち全体が一体となったサステイナブルなまちづくりにより、今では「**住みたい都市 全米ナンバーワン**」に
- **CBL**先進地域として注目を集めている
 - ポートランド州立大学としての経営戦略として
 - 20年以上前からの取り組み。
 - 年間240科目を開講し、4,300人が学ぶ。
 - 核となる組織「**University Studies部門**」
 - 多数の「**コミュニティパートナー（地域協力者）**」との**継続的な関係**
 - 専門職「**Academic Professional**」

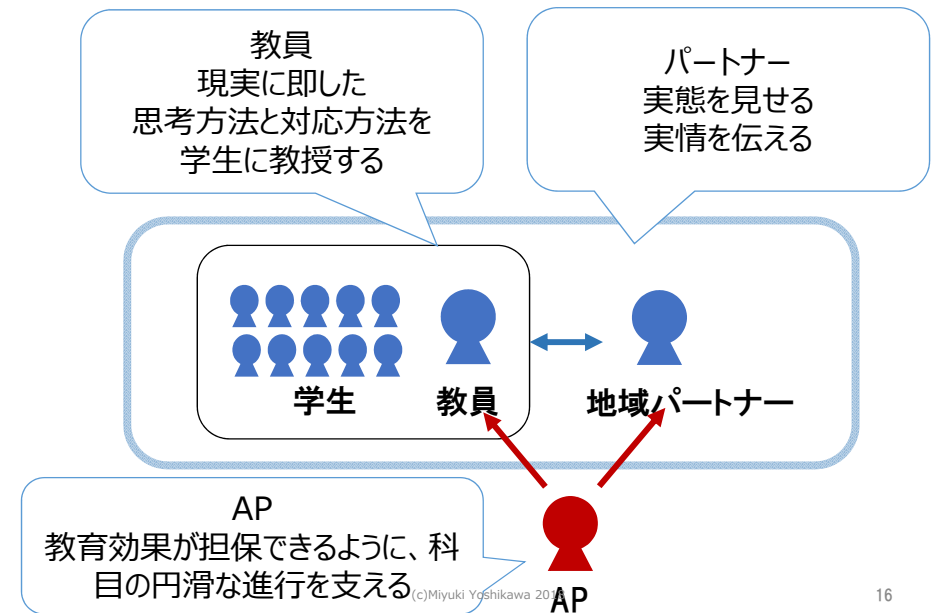
Academic Professionalの機能

- 専門職「Academic Professional」
 - CBLのまとめ役（オーガナイザー）
 - 大学、パートナーそれぞれの状況に応じたサポートを行う



- 科目開設時の助言
 - CBL指導方法の相談受け
 - パートナーとの関係性維持のサポート
 - 科目改善への助言
 - 定期的な交流を継続
 - 協働提案
 - 科目改善へのサポートや助言
- (c)Miyuki Yoshikawa 2018

役割分担



- AP自身の資質、能力
 - a. 社会人としての実務能力
 - b. 地域パートナーの状況を理解するビジネス知識 (事業構造、市場、経営、予算、労務等)
 - c. 教員の教育意図を正確に理解する力
 - d. 教員との信頼関係、直言できる関係性
- 教員側の理解
 - APの役割理解 「協力者」「相互補完関係」
- 組織体制
 - 教員とAPが協力しやすい環境構築、維持

ポートランド州立大学 CBL	岡山大学 実践型社会連携教育
- ポートランド州立大学としての経営戦略として20年以上前からの取り組み。	• PRIMEプログラムの一環としての変革
- 年間240科目を開講し、4,300人が学ぶ。	• 年間2400人が受講可能な全学体制
- 核となる組織「University Studies部門」	• 推進役として「 基幹教育センター 」
- 多数の「コミュニティパートナー（地域協力者）」との継続的な関係	• 地域との接点としての「 地域総合研究センター 」
- 専門職「 Academic Professional 」	• 専門職「 実践型教育プランナー 」

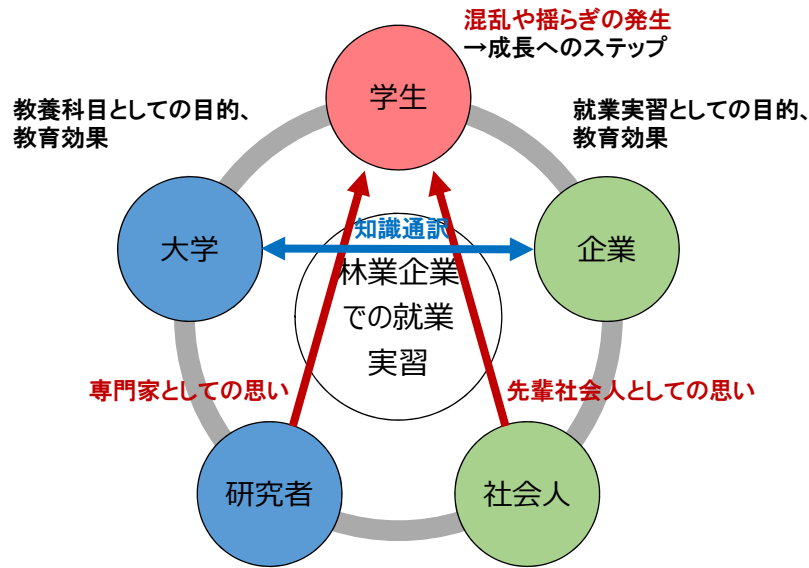
- 実践型社会連携科目の開発と運営
 - 目的実現のための授業設計
 - 科目担当教員と協議 ○提案 ×指示受け
 - 学外協力者候補の提案と選定
 - 教員サポート（講義、指導含む）、オブザーバー参加 等
 - 学外協力者（団体・個人）の提案、折衝、事後ケア
 - 候補への打診、折衝
 - 授業内容打ち合わせ、サポート
 - フォローアップ

- 教員や高等教育機関の専門用語や思考を、学外協力者と齟齬なく共有するための「知識通訳」
- 企画実現に向けてのファシリテーター、時に実行者

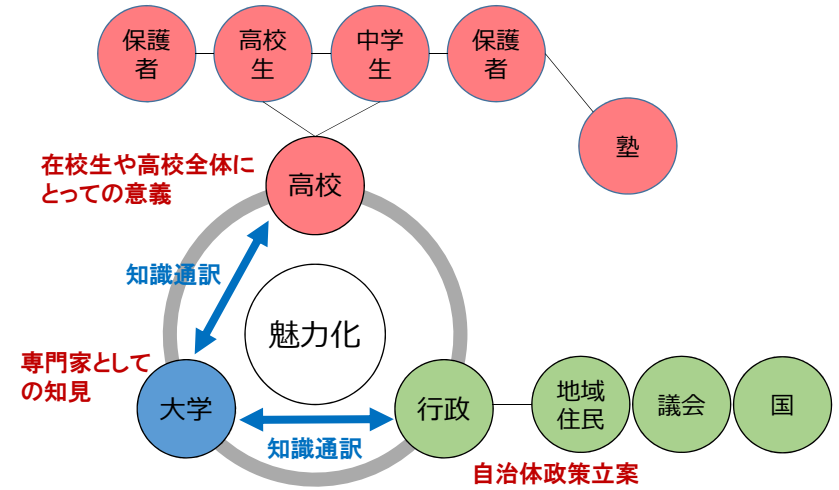
知識通訳

1. 用語が共通理解されているか
2. 話し手の意図ー聴き手のレディネス 合致か
3. 聴き手に伝わっているか

大学と社会の互惠性を考える視点
地域のシーズの汲み取り力
地域のニーズへの反応力
土台には、コミュニケーション力



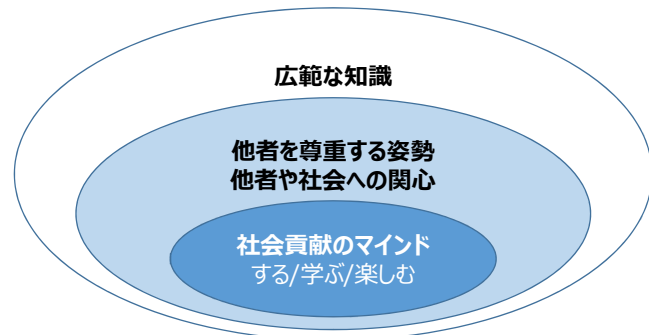
(c)Miyuki Yoshikawa 2018



(c)Miyuki Yoshikawa 2018

教育コーディネートの機能

- 機能 = 知識通訳
- 資質 = 社会貢献マインドとコミュニケーション力を土台として、他者を尊重する姿勢、他者への関心を持ち、そのうえで知識通訳に必要な広範な知識を持つこと



役割ではなく機能⇒専門家が自ら備えておいてもよいもの。
常に自身を監査(audit)する姿勢は必要。

地域ぐるみの人づくりフォーラム

2018年8月24日(金)午後 岡山大学 創立50周年記念会館

内容 (予定)	第1部 話題提供 (3例)
	岡山県立和気閑谷高等学校 香山真一校長 井原市教育委員会/備中志事人 藤井剛代表 岡山大学「実践型まちづくり論」 山田一隆准教授
	第2部 全員対話 (分科会5テーブル)
	第1部に登壇の3団体 岡山市立後楽館中学校・高等学校「まちなかのふるさと教育」 室貴由輝教頭 勝央町教育委員会「カタルバ」 三戸祥恵主査
	第3部 リフレクションタイム
	ポスター発表 おかやま創生 高校パワーアップ事業推進校

近日告知開始

岡山大学イベント情報 <http://www.okayama-u.ac.jp/tp/event/event.html>
岡山大学地域総合研究センターFacebook <https://www.facebook.com/OUagora/>

(c)Miyuki Yoshikawa 2018